教育長紹介

青森県

かざはり　とも こ
風張　知子

「青森の未来を担う人材の育成と、子どもも大人も青森が大好きで青森を誇りに思ってもらえるような取組を『教育は人づくり』という視点を大切にしながら進めたい」と思いを語る。

また、「全ての子どもたちの個性を尊重し、可能性を引き出す教育を進めるためには、高い志を持った教職員が子どもたちの幸せのために専念して働ける環境づくりが必要である」と学校における働き方改革に意欲を示す。

八戸市に入庁後、八戸市東京事務所長、八戸ポータルミュージアム館長、まちづくり文化スポーツ観光部長などを歴任し、退職後はデーリー東北新聞社常務取締役を経て、本年７月に教育長に就任。67 歳。

（青森県教育庁教育政策課長　高橋　和也）

埼玉県

ひ よし　とおる
日吉　亨

「平成31年度から5年間の計画期間で実施されている『豊かな学びで 未来を拓く埼玉教育』を基本理念とした第3期埼玉県教育振興基本計画が最終年度を迎えている。今年度を総仕上げとして各種施策を着実に進めるとともに、今後はこれまでの取組をしっかりと検証し、様々な方々からの意見をいただきながら新たな教育振興基本計画を策定していく。」と抱負を語る。

また、「『学力向上』は学校に求められる最優先の課題だと考える。その実現に向け、コロナ禍の中で整備された一人一台端末により教育におけるICT活用を一層進め、子供たちの学びに効果的に活用することで教育DXを推進し、誰一人取り残されない児童生徒一人一人の個別最適な学びの実現を図りたい。」と意欲を示す。

昭和 63 年、埼玉県公立高等学校教員に採用。県教育局県立学校人事課長、県立学校部副部長、同部長、県立浦和高等学校長などを歴任。本年6月、教育長に就任。59 歳。

（埼玉県教育局教育総務部副部長兼総務課長　案浦久仁子）

佐賀県

か　い　なお み
甲斐　直美

行政職として、佐賀県の主要施策である「子育てし大県“さが”」の推進役をはじめ、子育て、女性活躍、健康福祉などの分野で、県民に寄り添い、リーダーシップを発揮してきた経験を持つ。

佐賀県教育委員会の基本コンセプトは『ほめるから、はじめる。はじまる。』

児童生徒へのまなざしは温かく、「自己肯定感を育むことで、子どもたちが主体性を持って学び、チャレンジし、志を持って未来へ飛び立っていけるよう力を尽くしたい。」と柔らかく語る。

昭和 62 年佐賀県に入庁。健康福祉部男女参画・こども局長、健康福祉部長、総務部長などを経て、本年６月に教育長就任。59 歳。

（佐賀県教育委員会事務局教育総務課長　内田　祐美）

「『幸せな人生と豊かな社会を創造する』というＷｅｌｌ‐ｂｅｉｎｇ（しあわせ）の実現のために、『自ら学び、考え、主体性をもって行動できる力』、いわゆるエージェンシーをはぐくむ教育の実現に努めたい。」と抱負を語る。

また、「子どもと教職員一人ひとりの幸せの保障と、社会の豊かさの創造のために、『学び方』『教え方』『働き方』にＩＣＴの活用という横ぐしをさし、ダイナミックな教育改革の実現に努めるなど、予測困難な時代における教育への挑戦を続ける覚悟である。」と教育のＤＸの推進などに意欲を示す。

昭和59年に埼玉県公立学校教員に採用され、市立中学校校長、生涯学習部長などを歴任し、本年６月に教育長に就任。62歳。

さいたま市

竹居（たけい）　秀子（ひでこ）

（さいたま市教育委員会事務局管理部教育総務課長　小出　博康）